

上1・2: 『江戸買物獨案内』  
中: 『都名所圖會』より刊記  
下: 『萬代大阪町鑑』より刊記



# 江戸・上方の本屋さん

令和7年 10月21日(火) ～ 12月22日(月)

◇入場無料◇

【会場】 神戸大学 社会科学系図書館

2階展示ホール

【開館時間】 月～金 / 8時45分～20時

土・日 / 11時～17時(祝日は休館)

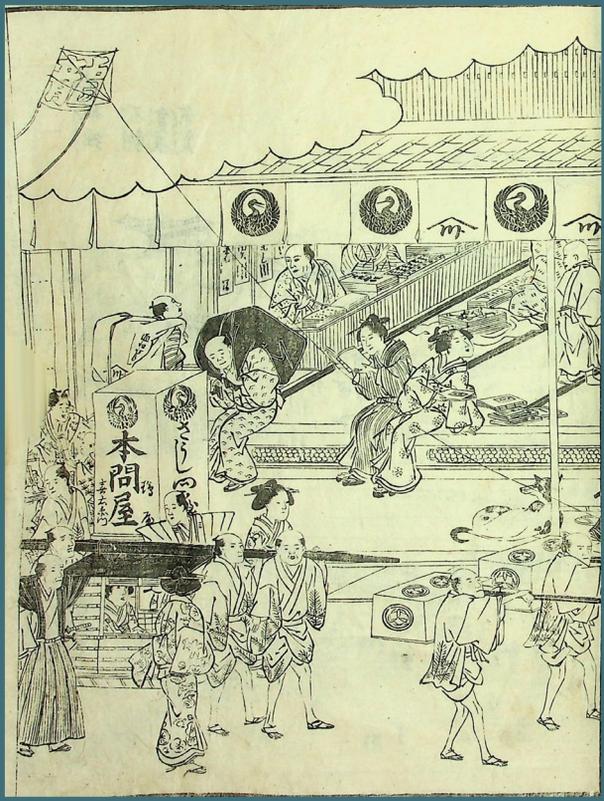
<アクセス>

阪急「六甲」駅、JR「六甲道」駅、阪神「御影」駅より  
市バス36系統バス停「神大正門前」下車、キャンパス  
内を北へ徒歩約5分、またはバス停「六甲台」下車、  
東へ徒歩約2分

駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

<お問合せ>

神戸大学附属図書館  
〒657-8501  
神戸市灘区六甲台町2-1  
<https://lib.kobe-u.ac.jp/>



『江戸名所圖會』より鶴屋店先



# 江戸・上方の本屋さん

神戸大学は、教育・研究とならぶ使命として、地域・社会との連携協力にも力を注いでいます。附属図書館においても、所蔵する貴重な資料を多くの皆様にご覧いただきたいと考え、平成16年度から資料展示活動を実施しています。

中世以前の書物の多くは手書きで写した本（写本）によって流布し時を経て伝えられてきました。近世初期になると活字版の印刷が行われ、さらに江戸時代になると木版による製版印刷が主流となり、本屋が誕生します。江戸で活躍した「蔦屋重三郎」のほか、京や大坂を代表する本屋を、当館所蔵資料のなかからそれら本屋の出版した本とともに紹介いたします。江戸・上方の庶民文化の片鱗を感じ、そして当館所蔵の古典籍をご覧いただける機会となれば幸いです。ご来場をお待ちしております。

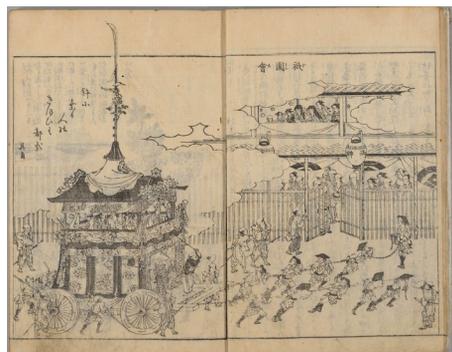
## 展示概要

### 1. 江戸時代の本屋さんとは

江戸時代は、それまで貴族や僧侶など特権階級だけのものだった読書文化が、庶民の間にも広まった時代です。京で始まった商業出版は大坂や江戸に広がり、学問書や教養書だけでなく、名所図会や実用書、草双紙、読本など、多様な本が刊行されていきます。こうした出版文化を支えた江戸時代の本屋の営みについて紹介します。



『人倫訓蒙圖彙』より本屋の頁



『都名所圖會』

### 2. 京の本屋さん

日本で最初に本屋が成立した地域は京(京都)でした。中世の印刷物の多くはお経の本や仏教書であり、京の寺院が作成するうちに、本作りの土壌が京に整いました。慶長年間創業の老舗・出雲寺和泉掾、貝原益軒の本で成功した小川多左衛門、名所図会でその名を残した吉野屋為八等、京で活躍した本屋とその出版物を紹介します。

### 3. 大坂の本屋さん

17世紀後半、元禄文化が開花した大坂では、数多くの本屋からの出版が盛んになり、幕末には心齋橋筋に本屋が軒を連ね、大変な賑わいを見せました。『菅原傳授手習鑑』など人気を博した浄瑠璃の正本や、商売往来などの実用書、各地の紹介と旅行案内を兼ねた名所案内や航路図など庶民向けの本を手掛けた大坂を代表する本屋とその出版物を紹介します。



『菅原傳授手習鑑』

### 4. 江戸の本屋さん

京や大坂から遅れて繁栄を迎えた江戸の本屋は、草双紙や洒落本などの地本と呼ばれる江戸独自の出版物も誕生し、町人にも浸透することで発展していきました。2025年のNHK大河ドラマ『べらぼう～蔦重栄華乃夢斬～』でも主人公として取り上げられた蔦屋重三郎などの江戸の出版文化を支えた本屋とその出版物を紹介します。



『江戸買物獨案内』